

コロナ禍による生活と意識に関する アンケート調査報告書



土浦市イメージキャラクターつちまる（アマビEver.）

令和3年5月

土浦市女性団体連絡協議会

目 次

	(ページ)
はじめに	1
○アンケートの目的	2
概要	2
○アンケートの内容	2
問1 あなたの年齢は	2
問2 あなたの性別は	2
問3 あなたの職業は	3
問4 新型コロナウイルス感染症についてどう感じていますか。	4
問5 今、特に気になっていることは何ですか。	5・6
問6 あなたやあなたの家族で、仕事や給料などに変化はありましたか。	7・8
問7 日常生活に影響していることは何ですか。	9～11
問8 人との関わりや生活の中で、ストレスを感じたことはありますか。	11～13
問9 コロナ禍の生活で気づいたことはありますか。	14・15
問10 コロナ禍を体験して思ったこと、感じたことなどをご自由にお書きください。	16～21
○資料 (アンケート用紙)	22・23
未来に希望の持てるやさしい社会へ	24

はじめに

2019年12月発端の新型コロナウイルスはまたたくまに世界中で猛威をふるい、社会経済に影響を与え、私たちの生活も計り知れないほどの甚大な被害を受けています。感染拡大がこのような事態を引き起こすとは思ってもみませんでした。戸惑い、不安に陥り、生活様式も一変しました。歴史的にも100年に一度ともいわれる新型コロナウイルスとどのように向き合っているのか、どんな毎日を過ごしているのか、後から思い出して「語る」にも限りがあります。私たちの今の足もとの実体験を記録に残し、それを振り返ることによって今後の生活のありように何か意味を見出すことができるのではないのでしょうか。

そこで、生活者の意識・行動をその気持ちに寄り添いあいながら、しっかりとデータや言葉で記録しておこうと考え、2020年11月から翌年1月にかけて10代以上の市民にアンケート調査を行いました。女性団体会員の手渡し依頼によって363人から回答(回収率約79%)が得られました。

今回の調査で非常に特徴的だったことはコロナ禍体験で思ったこと、感じたことを自由に書く欄を設けたところ、153人もの方々が記述してくれました。各設問の「その他」欄にもさまざまな記述が多数ありました。なぜこのように皆様が自分の思いを書いたのでしょうか。私たちはステイホームや、ソーシャルディスタンスなどの言葉が一般化し、社会と切り離されたような思いをすることがありました。「人」として生活の基本であるコミュニケーションが思うようにいかない不自由さに、「つながりたい、伝えたい、自分の思いを声に出したい」そんな気持ちが伝わってきたように思いました。

今後、コロナ禍がどのようにたどっていくのかはわかりません。少なくとも被害が最小になる付き合い方をしつつ、全ての人人間らしい生活と明るい希望を見いだせるような社会を創っていくことを願っております。この度のアンケート結果にヒントを見出していただければ幸いです。

この度アンケートにご協力くださいました市民の皆様には、厚く感謝申し上げます。並びに、本調査を実施するにあたり、貴重なご助言、ご協力くださいました関係機関及び土浦市男女共同参画センターの職員の皆様にも心より感謝申し上げます。

令和3年5月
土浦市女性団体連絡協議会
会長 今高 博子

コロナ禍による生活と意識に関するアンケート調査結果

○アンケートの目的

令和2年4月、新型コロナウイルスの感染予防のため、緊急事態宣言が発令されました。世界中の人が想像もしなかった事態に、大人も子どもも不安のなか全くの未経験の生活を送っています。このような歴史上にも残るような体験をしている者として、どのような生活をし、何を考えながら暮らしていたのか、記録に残すことを目的としました。

概要

調査地域	土浦市全域
調査対象	10代（高校生）以上の市民
調査方法	土浦市女性団体連絡協議会会員による依頼（手渡し）
調査期間	令和2年11月～令和3年1月
回収結果	アンケート配布数 460人 アンケート回収率 全体 78.9%（363人）

- ※ 資料内のグラフにおける男女・世代のデータについては、数値を簡略化しているため、必ずしも100%となっておりません。
- ※ 本調査のアンケート用紙は、22・23ページにありますので、ご参照ください。

○アンケートの内容

問1 あなたの年齢は

(人)

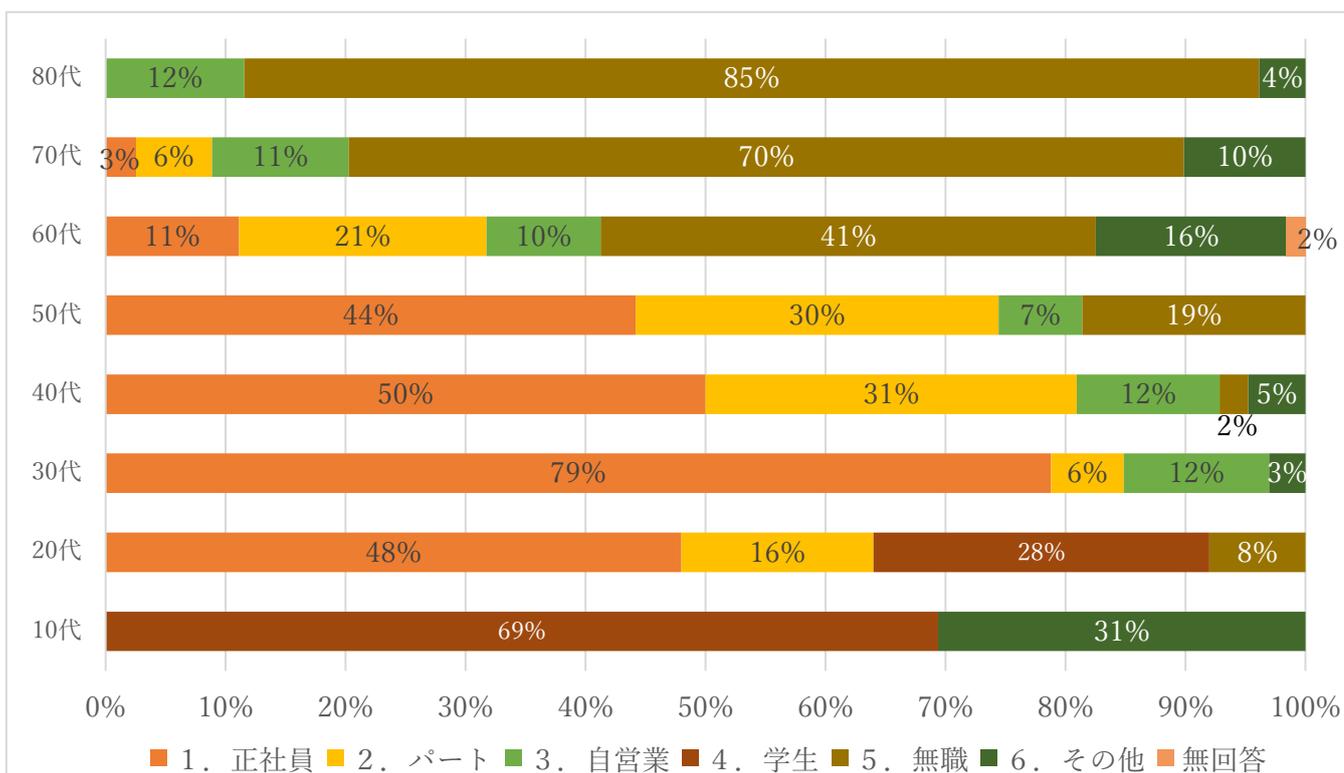
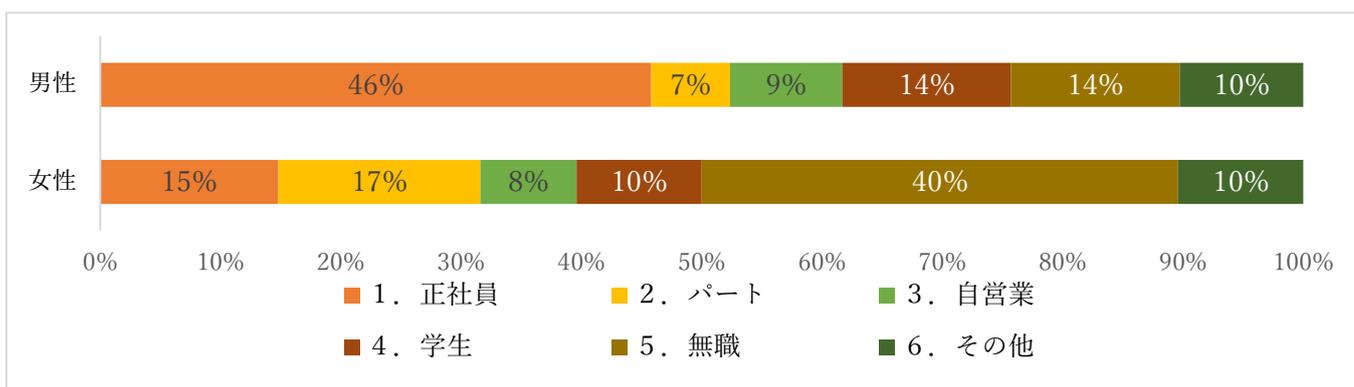
項目	女性	男性	無回答	計
1. 10代	30	19		49
2. 20代	12	12	1	25
3. 30代	16	17		33
4. 40代	24	17	1	42
5. 50代	29	13	1	43
6. 60代	49	14		63
7. 70代	69	10		79
8. 80代	21	5		26
10. 無回答	3	0		3
合計	253	107	3	363

問2 あなたの性別は

項目	回答数	割合
1. 男性	107人	29.5%
2. 女性	253人	69.7%
3. 無回答	3人	0.8%

問3 あなたの職業は

項目	回答数	割合
1. 正社員	87	24.2 %
2. パート	50	13.9 %
3. 自営業	30	8.3 %
4. 学生	41	11.4 %
5. 無職	115	31.9 %
6. その他	37	10.3 %
合計	360	100 %

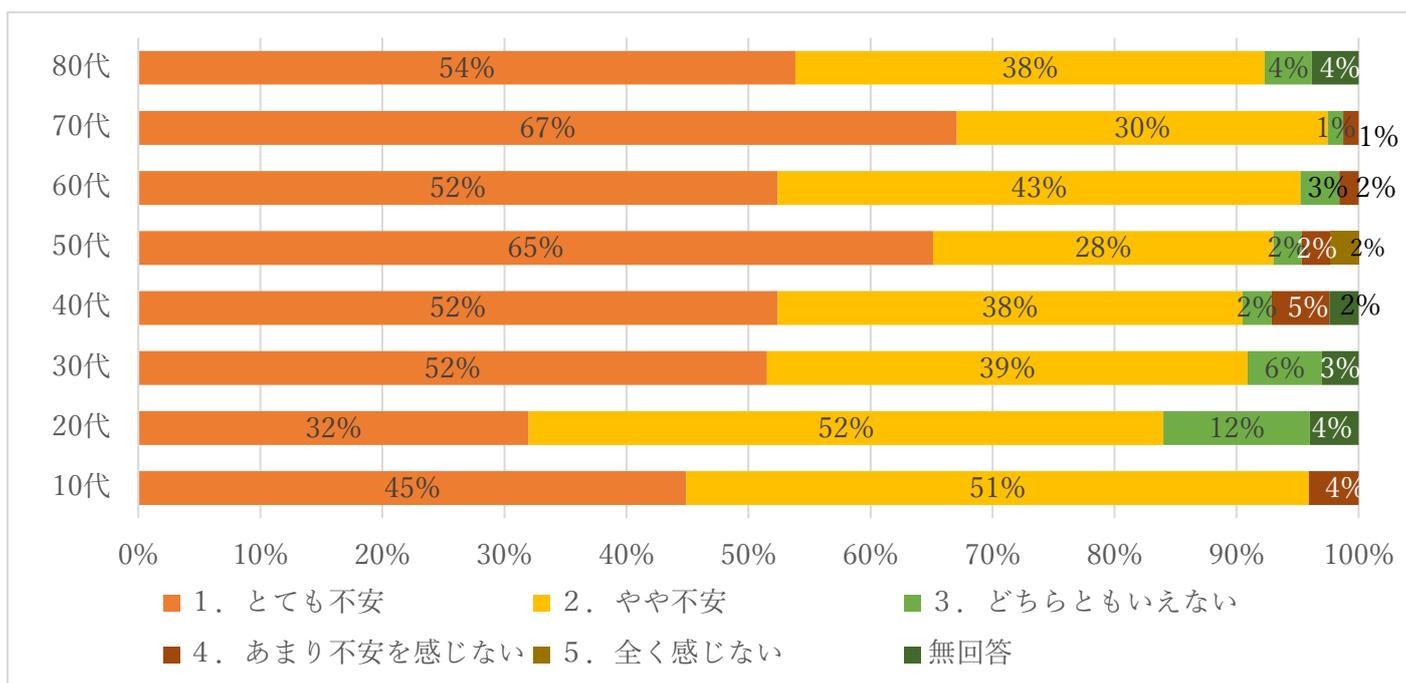
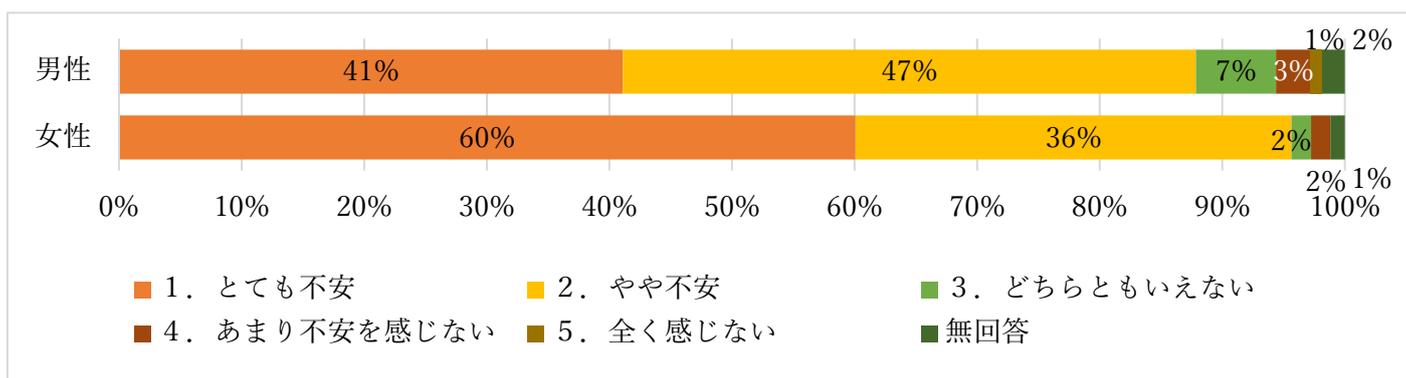


結果

全体ではおよそ32%が無職、次に正社員が24%、パートが14%と続く。男女別では男性の正社員が46%と約半数を占め、女性は無職が一番多かった。年代別では正社員が30代で8割近くあり、20、40、50代も約半数程度占めている。

問4 新型コロナウイルス感染症についてどう感じていますか。

項目	回答数	割合
1. とても不安	197	54.3 %
2. やや不安	142	39.1 %
3. どちらともいえない	11	3.0 %
4. あまり不安を感じない	7	1.9 %
5. 全く感じない	1	0.3 %
無回答	5	1.4 %
合計	363	100 %



結果

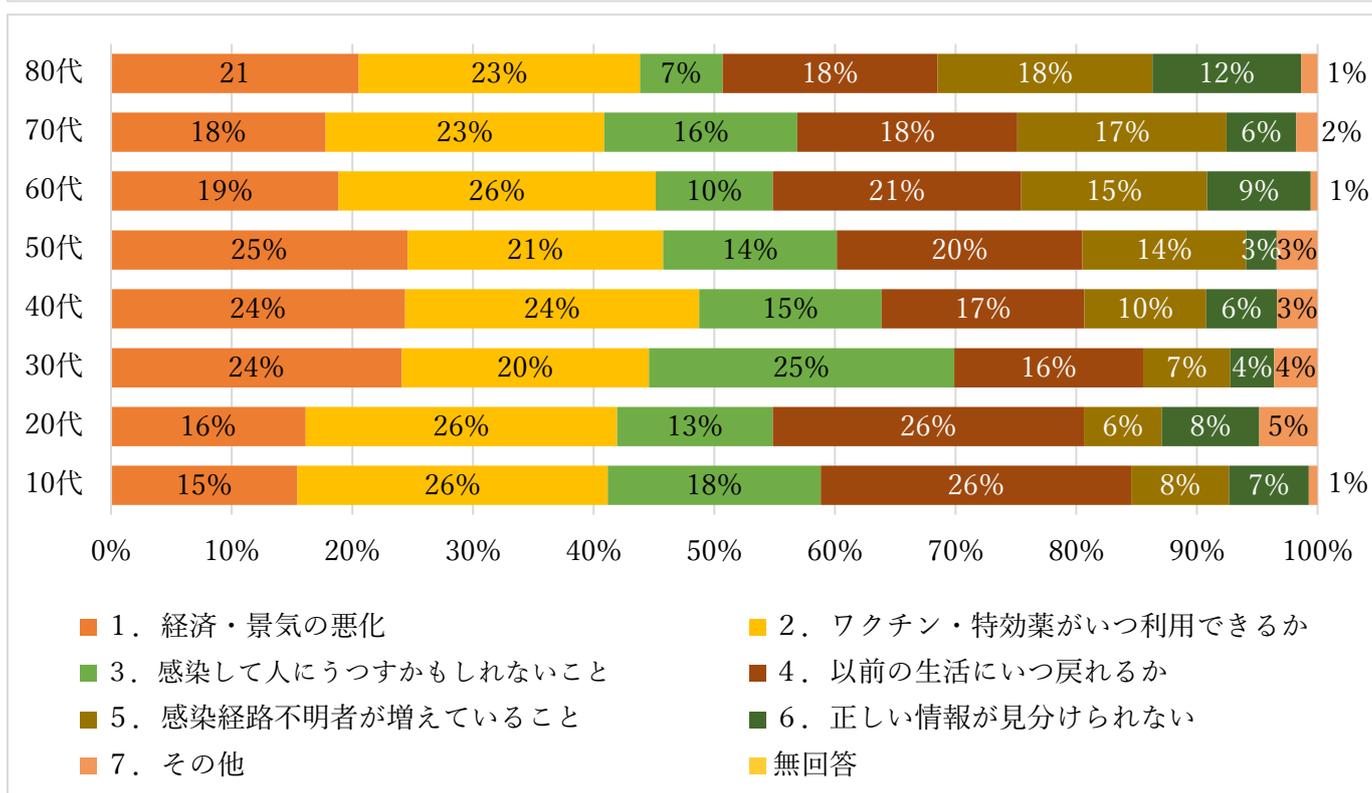
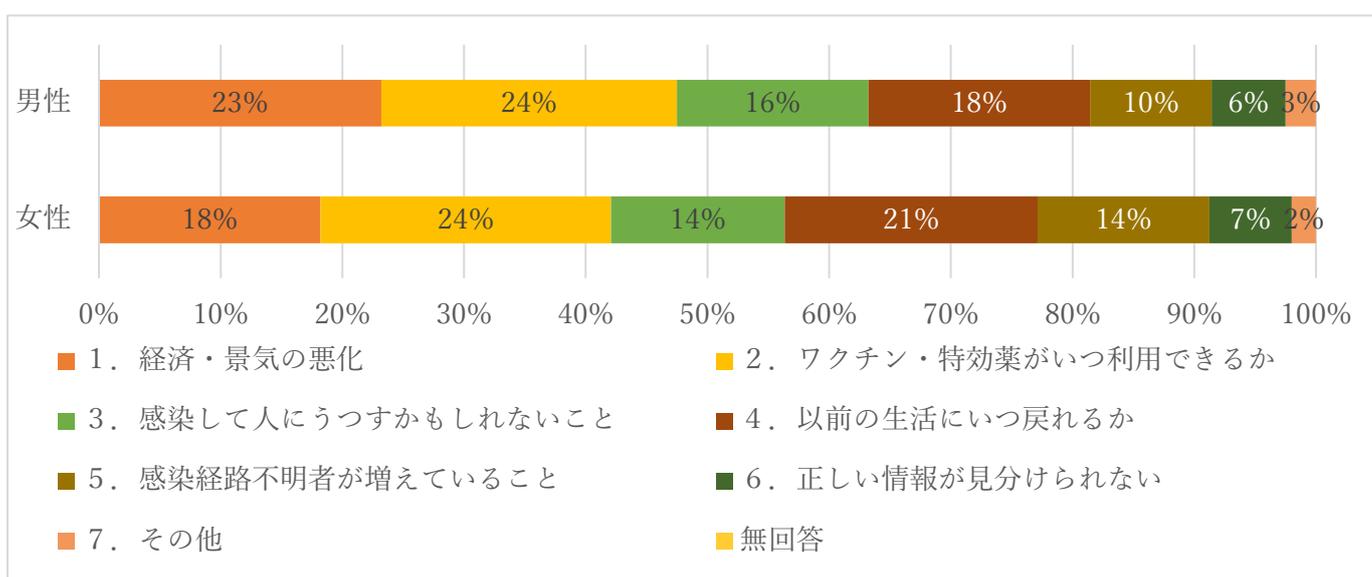
「とても不安」「やや不安」を合わせると全体では約93%の人が不安と回答している。男女別では男性の「とても不安」41%、「やや不安」が47%、で合わせると88%、女性は「とても不安」60%「やや不安」36%で合わせると96%とで女性の方が非常に不安を感じている。年代別は20代が「とても不安」が32%、「やや不安」が52%、「どちらともいえない」が12%であり、不安度が一番少なかった。

考察

若者にもコロナ感染者がいるが、他の年代と比べて感染に対する危機意識が少ない。若者、特に20代は「とても不安」が一番少なかった。これに関しては無症状、重篤化しにくいといったメディア情報と関連があるのか。

問5 今、特に気になっていることは何ですか。3つ選んでください。

項目	回答数	割合
1. 経済・景気の悪化	197	19.8 %
2. ワクチン・特効薬がいつ利用できるか	240	24.1 %
3. 感染して人にうつすかもしれないこと	146	14.6 %
4. 以前の生活にいつ戻れるか	199	20.0 %
5. 感染経路不明者が増えていること	129	12.9 %
6. 正しい情報が見分けられない	65	6.5 %
7. その他	21	2.1 %
8. 無回答	0	0 %
合計	997	100 %



『7. その他』記載（原文まま）

【20代】

男性	・政治家の無責任な発言
	・外出自粛が求められているが、判断基準が曖昧なのに、責任を求められている事。
	・新しい生活様式への対応の仕方

【30代】

女性	・子供たちの学習の遅れや運動不足
男性	・人々のモラルが無くなっていることが、ストレス
	・自分を含む近親者が、感染した際の周囲への影響

【40代】

女性	・感染者に対する差別的な問題
	・かかった時に、重篤な症状になるのでは、ないか
	・持病を持っている子供が、万が一感染した時の症状の度合い
男性	・経済・景気の悪化に伴う犯罪の増加

【50代】

女性	・①人々の心がぎすぎすしてるように感じられコミュニケーションが円滑でなくなった。 ②精神的にずっと緊張を強いられていること。
	・①もし家族全員が感染して家を空ける事になった時 家は大丈夫なのか？（例 嫌がらせ いたずらなどの被害 空き巣など不安です） ②感染してしまった時の周りの人の反応が怖い
	・地域の感染状態
男性	・インフォデミックになっている

【60代】

女性	・検査体制が確立していない
----	---------------

【70代】

女性	・孫に感染が心配
	・国の対応策
	・外国人が（特に中国人）日本国内に多く入って来ること。出入国緩和政策はダメ
	・医療体制が持ちこたえられるかどうか気になる

【80代】

女性	・用心してマスクを利用する。むやみに外出しない。体調崩さないよう用心して食事をする。
----	--

結果

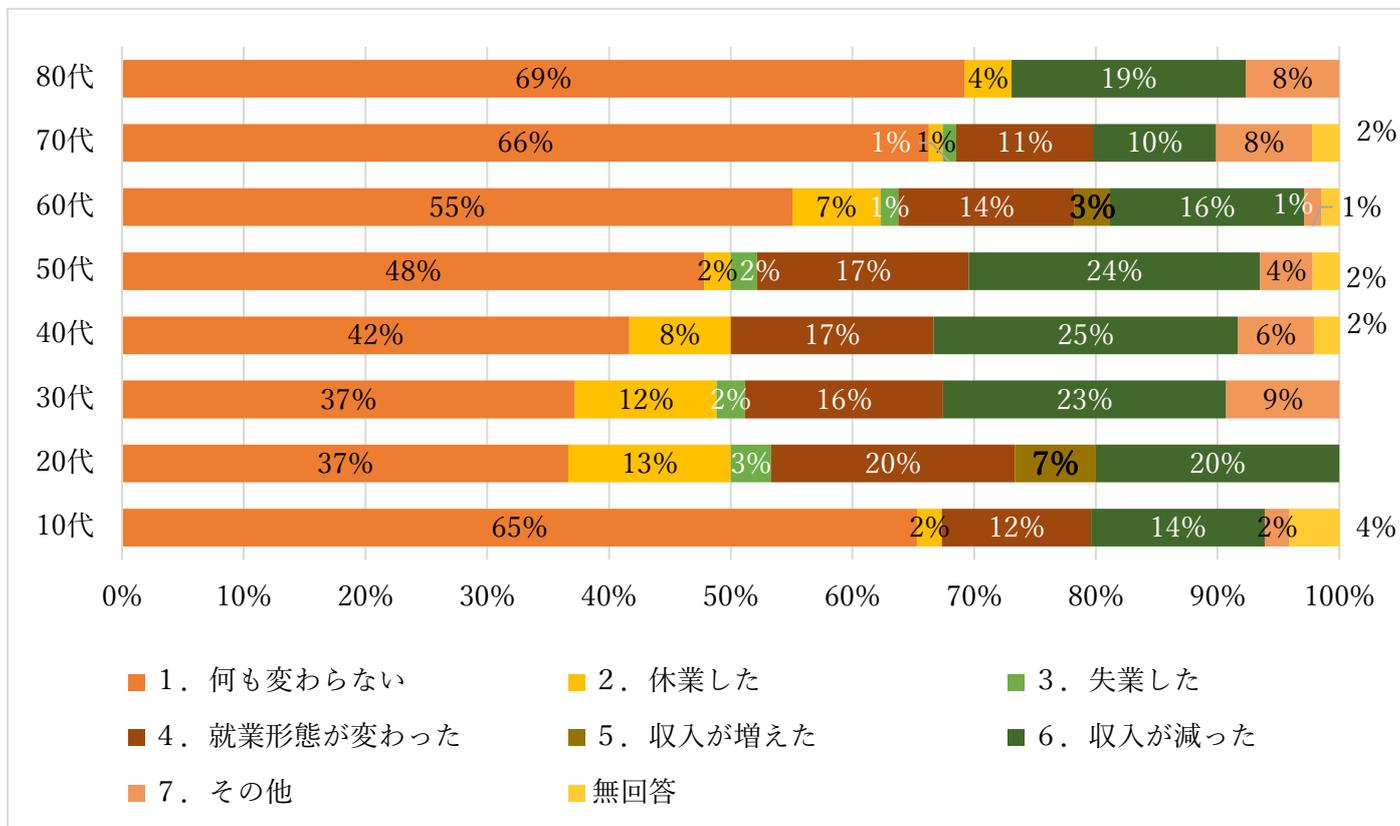
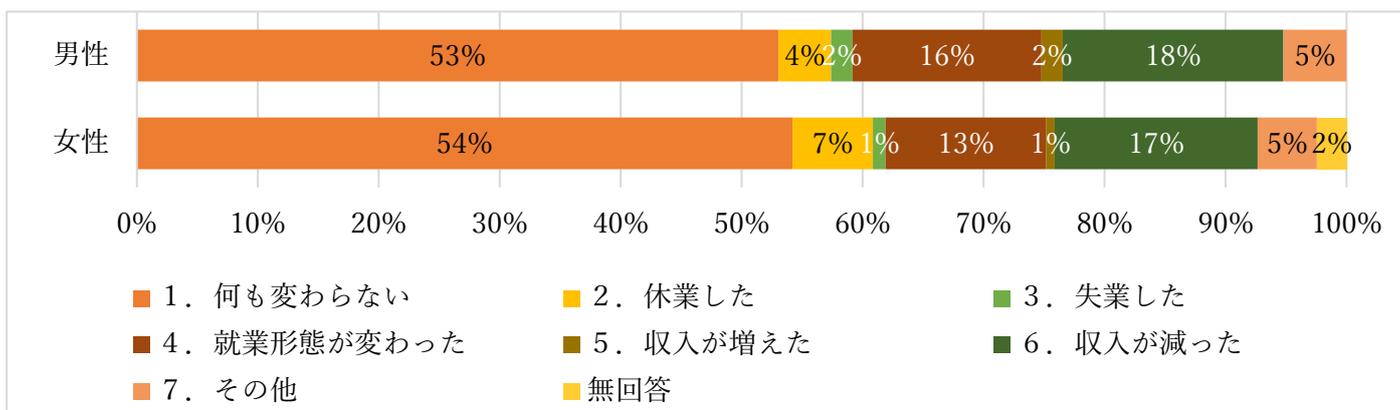
全体ではおよそ「ワクチン・特効薬がいつ利用できるか」が24%、「経済・景気の悪化」と「以前の生活にいつ戻れるか」が共に20%と続く。男女別はともに「ワクチン・特効薬がいつ利用できるか」が一番多く、男性の2番目に多いのが「経済・景気の悪化」の23%、女性の2番目は「以前の生活にいつ戻れるか」21%だった。年代別では30代が「感染して他人にうつすかもしれないこと」が25%を占め、他年代に比べ一番多かった。10、20代は共に「ワクチン・特効薬がいつ利用できるか」と「以前の生活にいつ戻れるか」の不安が26%で、同じ傾向を示している。

考察

「その他」の自由記述欄では男女年代を問わず、自粛生活でのストレスや感染の心配、感染者への差別的目線、国の対応の悪さなど、すべて切実な不安が述べられている。年代別からは30、40、50代が「経済・景気の悪化」を24～25%と多く回答していることは不況や会社の実績悪化など足もとの景況感を感じ取っていることと思われる。また、顕著なこととして「以前の生活にいつ戻れるか」が10、20代が他世代に比べ26%と高い。学校閉鎖やオンラインでの繋がりなどに変わって友人と心も体もリアルに突き合わせる生活が奪われ、「以前の生活にいつ戻れるか」気になっている姿が想像できる。若者の未来や夢がこの時間にも奪われてしまう現実を乗り越えてほしいと願わずにはいられない。

問6 あなたやあなたの家族で、仕事や給料などに変化はありましたか。(複数可)

項目	回答数	割合
1. 何も変わらない	217	53.7 %
2. 休業した	24	5.9 %
3. 失業した	5	1.2 %
4. 就業形態が変わった	56	13.9 %
5. 収入が増えた	4	1.0 %
6. 収入が減った	71	17.6 %
7. その他	20	5.0 %
8. 無回答	7	1.7 %
合計	404	100 %



『7. その他』記載（原文まま）

【10代】

女性	・分からない
----	--------

【30代】

女性	・事業実施体制の調整、訪問件数の減少、事業収益の減少
男性	・子供が休みになった
	・職業が変わった
	・残業が無くなった 配偶者は一時期自宅待機となり、給料が出なかった。 仕事量が減った。

【40代】

女性	・主人がテレワークに変わった
	・現時点では変わっていませんが、今後変わると聞いています。
男性	・大学（子供）がほぼ在宅学習（インターネット）になった。

【50代】

女性	・仕事内容が、三密を避けるプログラムに変更 デイサービス 利用者様と歌う カルチャーがガーデンニングに等 消毒・換気作業の回数が増えた。
男性	・出張が減った

【60代】

女性	・年金生活者だから
----	-----------

【70代】

女性	・今のところ特に変わりなし、パートさん達がカットされて仕事量は増えているようです。
	・年金暮らしですので、特に変化はありません。
	・大学生（4年生）がいるので不安です。
	・従業員がやめた
	・孫 アルバイトが少なくなった。
男性	・分からない

【80代】

女性	・年金
	・年金生活者です。

結果

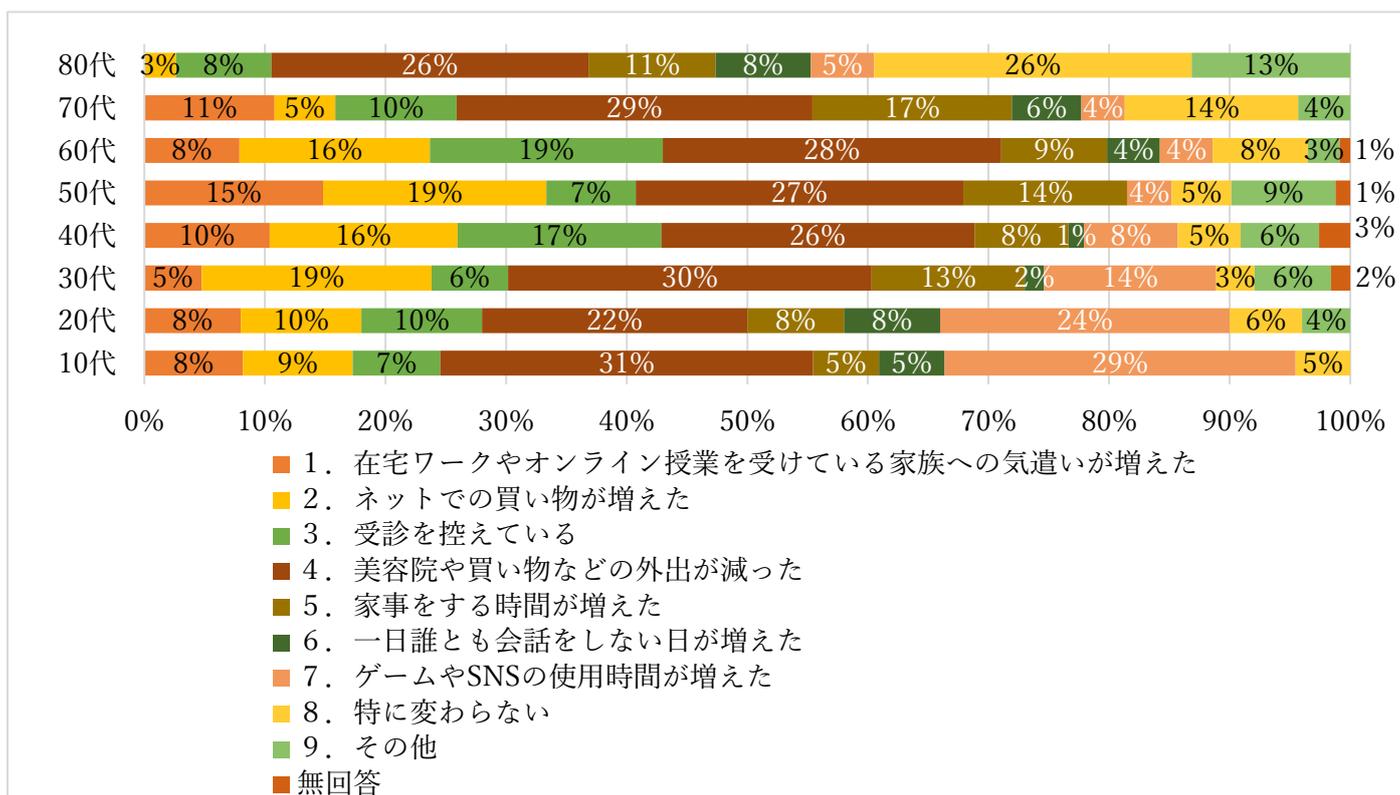
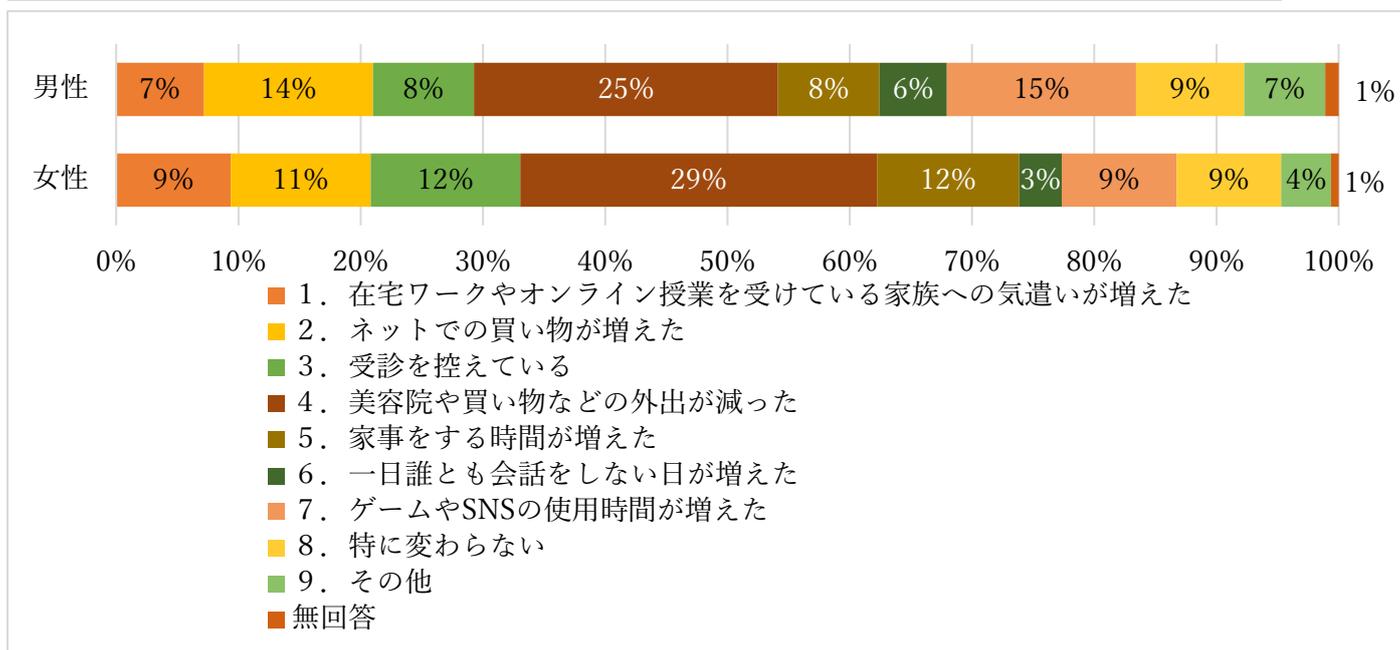
この問いは自分だけでなく家族の仕事や収入の変化についても尋ねている。全体では5割以上の方が自分も家族も収入は「何も変わらない」と回答。男女別で見ても男女同じ傾向でともに自分や家族の「収入が減った」が2割弱、次に「就業形態が変わった」が1割強と続く。年代別では「休業した」が20・30代で1割強、40・60代が1割弱だった。「収入が減った」は40代の25%が最高で50、30、20代の順で2割強が収入減と回答している。

考察

「その他」の自由記述欄には30代男性が「残業がなくなり、仕事も減った。妻は自宅待機で給料が出なかった」と書き、30代女性は「事業体制の調整、減少により収益の減少」と書いている。50代女性も「換気、消毒など作業が増えた」などを記述。一方、60代以上は「年金生活者だから変らない」の記述が多い。20～50代世代の「収入が減った」は平均24%に対し60代以上は平均15%で、やはり現役世代が本人及び家族の給料の減少を実感し、コロナ禍での経済的な影響を感じていると思われる。

問7 日常生活に影響していることは何ですか。(複数可)

項目	回答数	割合
1. 在宅ワークやオンライン授業を受けている家族への気遣いが増えた	60	8.9%
2. ネットでの買い物が増えた	81	12.0%
3. 受診を控えている	75	11.1%
4. 美容院や買い物などの外出が減った	190	28.1%
5. 家事をする時間が増えた	73	10.8%
6. 一日誰とも会話をしない日が増えた	28	4.1%
7. ゲームやSNSの使用時間が増えた	75	11.1%
8. 特に変わらない	58	8.6%
9. その他	32	4.7%
無回答	5	0.7%
合計	677	100%



『9. その他』記載（原文まま）

【20代】

男性	・飲み会がなくなっていらん気遣いが減った。県外への移動には抵抗がある。
	・オンライン授業に変わった

【30代】

女性	・オンラインでの会議や講義が出来るようになり機会が増えた。
	・家族や仕事以外の人と会わなくなった
男性	・気軽に遊びに行けなくなった
	・外で運動する機会や趣味、寝る時間が増えた。

【40代】

女性	・子供たちの行事が減り、無気力にならないか心配。
	・GOTOが始まっているも、県外への外出を極力控えてること
	・旅行や遠方のり
男性	・外出しなくなった
	・旅行などの楽しみがへった。

【50代】

女性	・老親に会えない、離れて暮らす子供に会えない
	・友人との食事などが減り 息抜きができずストレスが増えた
	・人と気軽に会って食事したり、都内のイベントに行けなくなったり、行動に制限があること のストレス
	・外出をどこまでしていいかストレス発散方法が難しい
	・友達との会食ができなくなった
	・知人宅への訪問を控えるようになった
男性	・外での飲食が減った。

【60代】

女性	・自分の時間が増えたので、本を読んだり、資格を取ることができた
男性	・東京へ行く機会が減った。
	・都内へ行くことが減った

【70代】

女性	・ボランティア活動が出来ない
	・電話の時間が増えたそこで（笑）を友達と
	・書道誌編集の形態変更——人数減、在宅ワークを増やす etc
	・遠くにいる家族との往来し難い
男性	・運動不足のため、体調の変化
	・夜の会食が減った

【80代】

女性	・マスク作り、買い物袋作り その他手芸をしている。
	・食事は昼と夜は息子が考えて、用意をしてくれるので、ありがたくいただいている。
	・地域の行事などが、減った
	・旅行に行けない、東京の友人、家族に会えない事
男性	・来店客がない

結果

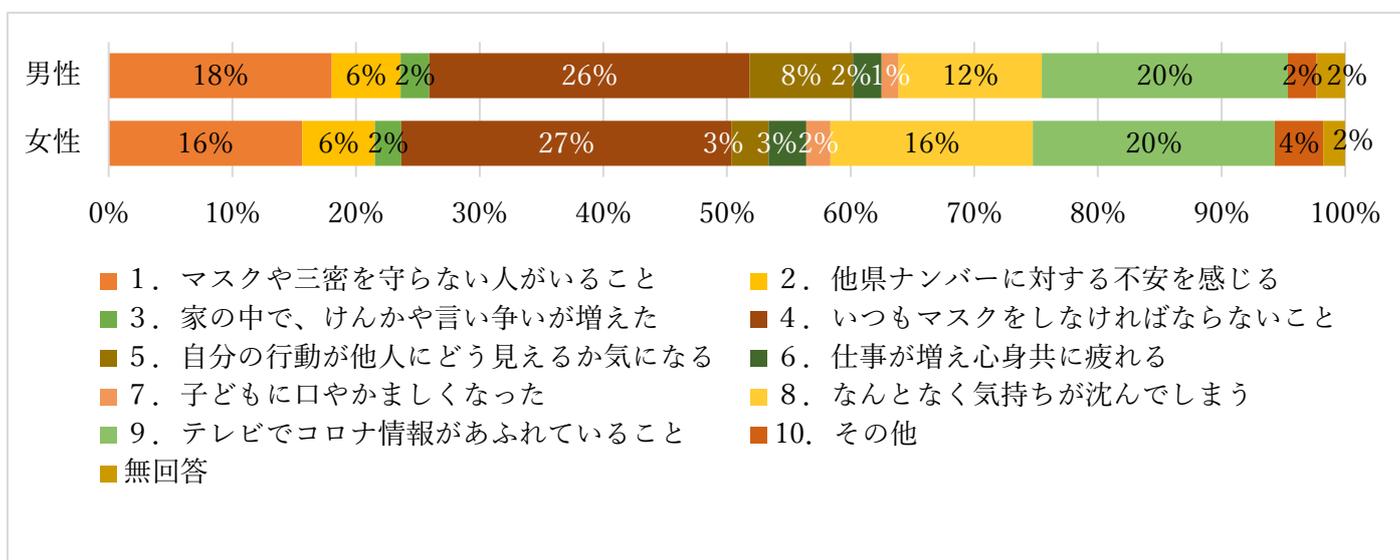
全体ではおよそ「美容院や買い物などの外出が減った」が28%で突出し、次に「ネットでの買い物が増えた」が12%と続く。男女別でみると男女ともに同じ程度のものが多い中、女性が男性の1.5倍ぐらい多いのが「家事をする時間が増えた」の回答。逆に男性が女性の倍ぐらい多かったのは「一日誰とも会話しない日が増えた」であることがわかる。年代別では大きな違いはなかったが、「ゲームやSNSの使用時間が増えた」の10代29%、20代24%の回答が特徴的である。

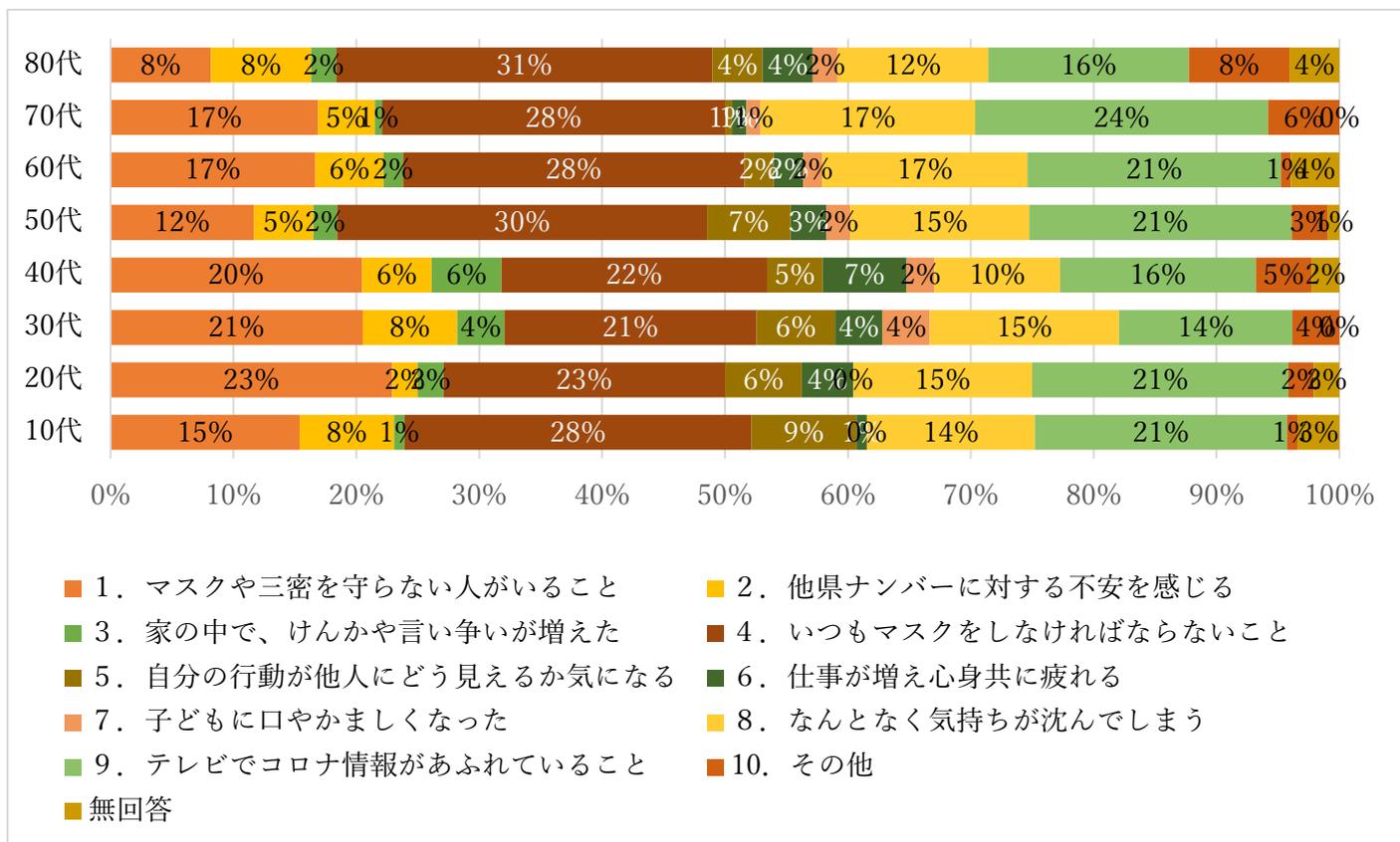
考察

「美容院や買い物などの外出が減った」が一番多いことは行政からの自粛要請にみんなが協力していることの影響と解釈する。興味深いのは女性の「家事をする時間が増えた」に対して男性は「一日誰とも会話しない日が増えた」と「ゲームやSNSの使用時間が増えた」が対照的。女性は家事をこなし、男性は黙ってゲームをしている姿が浮かんでくる。また、若者の「ゲームやSNSの使用時間が増えた」ことは想定内。「その他」欄には32人の自由記述があった。その中の27人は会食、旅行、ボランティア活動など日頃のコミュニケーションの機会がすべてなくなったことでコロナ禍生活のマイナスイメージを記述していた。一方、30代男性の「外で運動する機会や、趣味・寝る時間が増えた」、60代女性の「自分の時間が増え読書、資格を取る」などの前向きな回答があった。

問8 人との関わりや生活の中で、ストレスを感じたことはありますか。(複数可)

項目	回答数	割合
1. マスクや三密を守らない人がいること	129	16.4 %
2. 他県ナンバーに対する不安を感じる	45	5.7 %
3. 家の中で、けんかや言い争いが増えた	17	2.2 %
4. いつもマスクをしなければならないこと	208	26.5 %
5. 自分の行動が他人にどう見えるか気になる	35	4.5 %
6. 仕事が増え心身共に疲れる	22	2.8 %
7. 子どもに口やかましくなった	14	1.8 %
8. なんとなく気持ちが沈んでしまう	117	14.9 %
9. テレビでコロナ情報があふれていること	156	19.9 %
10. その他	27	3.4 %
無回答	15	1.9 %
合計	785	100 %





『10. その他』記載（原文まま）

【10代】

女性	・遊べない
----	-------

【20代】

男性	・友達と遊ぶ機会が減った。
----	---------------

【30代】

男性	・訪問を断られることがある
	・マナーのない人が、目立つようになった
	・コロナハラスメント

【40代】

女性	・特にストレスに感じることは無いです
	・手洗いの頻度がふえて 手間
	・いつ自分が感染者になってしまうのかなど、見えない恐怖にストレスを感じています。
	・常にコロナ関係にふりまわされていること 診療時間の短縮のチェック、常に消毒を心がけていること、消毒グッズやマスク 予備を持ち歩く etc 仕事が例年どおりではなく、イレギュラーなことが多い事

【50代】

女性	・友人や離れて暮らす家族に会えないのがつらい
	・テレビやメディアがあおりすぎてる
	・自分は外出を控え感染に注意して生活しているのに、他者が旅行などに行っているとストレスを感じる

【60代】

女性	・入院中の母に会えない。容易に会食ができない。
----	-------------------------

【70代】

女性	・外孫達に会う事が出来ないので、辛い
	・施設内でのおしゃべりが多い（お風呂 サウナ プール等にて）
	・自己管理
	・くしゃみや咳がでたとき
	・毎日が不安
	・外出しないので、家でボーっとしている時間が多い
	・ストレスは感じていません
	・活動範囲が狭くなった
	・対面でお話出来ない、少なくなった事
	・複数の人の集まりが制限され、特に遠くに住む家族との往来がストップした事

【80代】

女性	・コロナに負けていません。
	・あまり気にしないで必要な時は、マスクをして用心している
	・電話などで他人と身内と関わる時間が増えて、ストレスはあまり感じない。
男性	・商売の売上げが激減

結果

全体では「いつもマスクをしていなければならないこと」という回答が一番多く、「テレビでコロナ情報があふれていること」、「マスクや三密を守らない人がいること」「なんとなく気持ちが沈んでしまう」の順でストレスを挙げている。男女別では「なんとなく気持ちが沈んでしまう」の回答は、女性の方が男性の12%に対し16%とやや多い。年代別では40代が「家の中で、けんかや言い争いは増えた」、「仕事が増え心身ともに疲れる」などの回答がほかの年代と比べて多い。

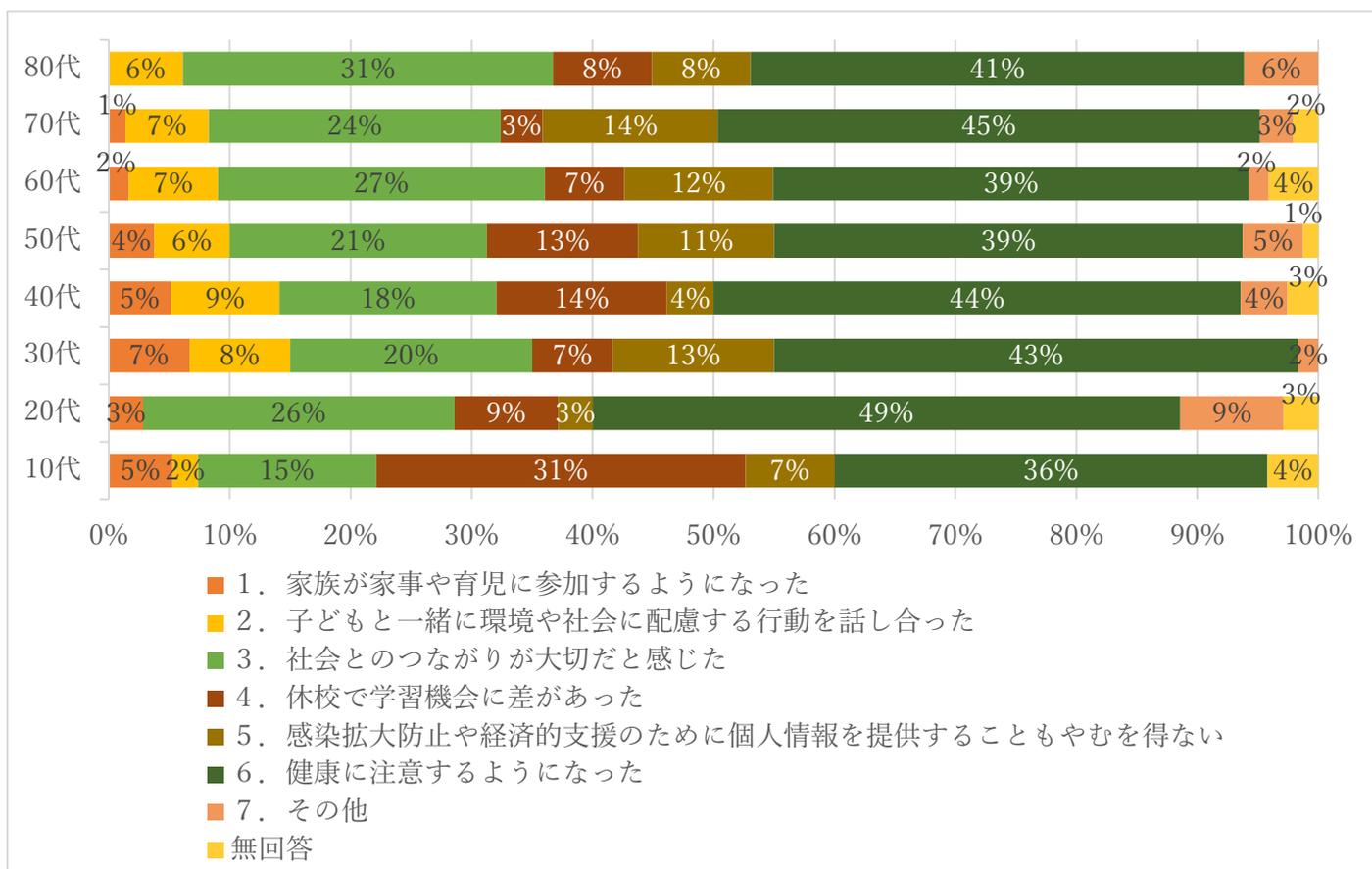
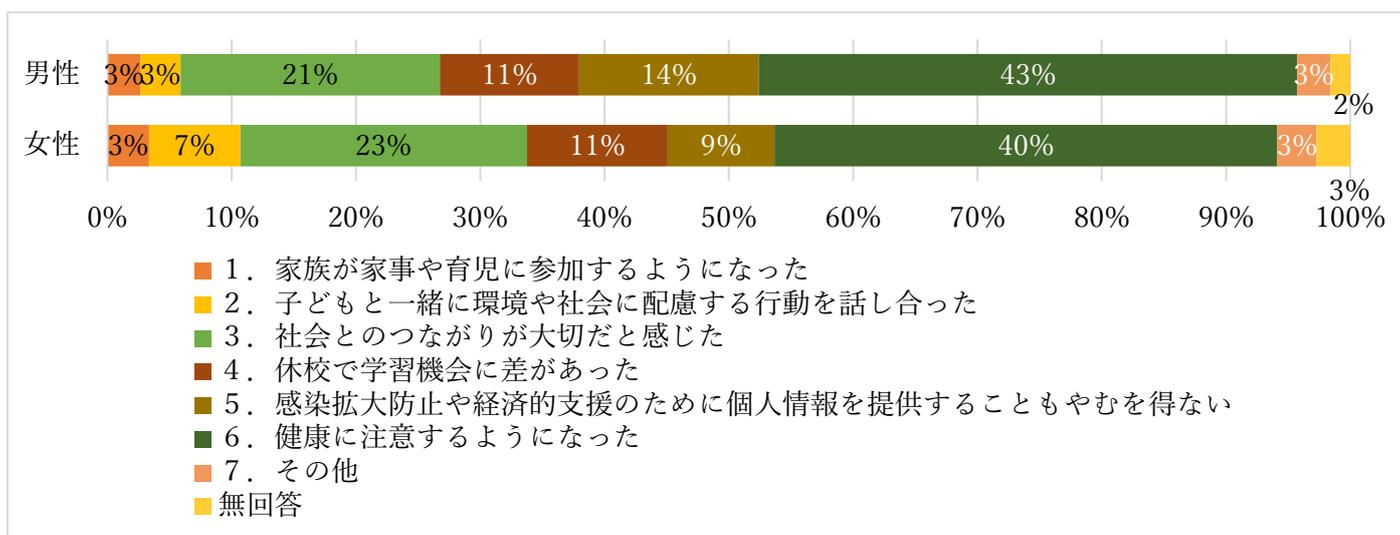
考察

男女別では「自分の行動が他人にどう見えるか気になる」の女性の回答が3%に対し男性は8%とやや多く、「なんとなく気持ちが沈んでしまう」の男性の回答が12%に対し女性は16%と多く、女性が他人からの視線に気を配る力もなくなっているのか、内にこもって落ち込む傾向は注視すべきことである。

全体で見た場合、「テレビでコロナ情報があふれていること」というストレスが約20%を占め、2番目に多い。これは「その他」欄記述に「咳くしゃみが出た時」「マナーの無い人が目立つ」「施設内でおしゃべりが多い」「注意して生活しているのに他者は旅行に行っている」「テレビやメディアがあおりすぎている」とか、「コロナハラスメント」などをストレスと記述している人が約3割もいた。中傷や偏見などの情報がテレビやメディアから何度も入ってくることによって感染に対する恐怖心や不安が増幅し、周囲からの厳しい視線をかえって意識させているのかもしれない。

問9 コロナ禍の生活の中で気づいたことはありますか。(複数可)

項目	回答数	割合
1. 家族が家事や育児に参加するようになった	21	3.1%
2. 子どもと一緒に環境や社会に配慮する行動を話し合った	42	6.3%
3. 社会とのつながりが大切だと感じた	150	22.4%
4. 休校で学習機会に差があった	76	11.4%
5. 感染拡大防止や経済的支援のために個人情報を提供することもやむを得ない	68	10.2%
6. 健康に注意するようになった	276	41.3%
7. その他	20	3.0%
無回答	16	2.4%
合計	669	100%



7. 『その他』記載（原文まま）

【20代】

男性	・ コロナコロナと騒いでも仕事が減らない。
	・ 個人情報の提供はやめてほしい 個人情報を守られるべき
	・ 人とのコミュニケーションが減った

【30代】

男性	・ モラルのない人がいかに多いか感じた
----	---------------------

【40代】

女性	・ 普通の生活の有難さを感じた。
	・ オンライン授業や家庭学習への負担が多大です。
	・ 非接触型の電子マネーを使うようになった。

【50代】

女性	・ 自由に旅行したり、外食や買い物ができたりするといったあたりまえだと思っていたことが、制限されてしまう息苦しさや恐怖。
	・ 消毒のしすぎは、かえって体に良くないと思う。
	・ オンラインでも利用し、家族とのかかわりや関係が大切で深めることができたこと
男性	・ より手洗いを遂行するようになった

【60代】

女性	・ クラシック音楽を聴くことの大切さ
	・ 自分の方針、方向性を決める。

【70代】

女性	・ 外出が減り、テレビの前にいる事が多くなった。
	・ 社会参加の場が減少
	・ ZOOMを使っての研修をするようになった。
	・ 政治劣化

【80代】

女性	・ 夜のスナックやイベント会場など 出ない事
	・ ご近所の人と話をするときは、マスク利用している。
	・ 今まで単なる風邪かなで過ごしてきたが、現在は、体温を何回も測ってみたいりする。

結果

全体ではおよそ「健康に注意するようになった」が一番多く41%、2番目に「社会とのつながりが大切だと感じた」が22%、「休校で学習機会に差があった」が3番目11%だった。男女別では「健康に注意するようになった」、「社会とのつながりが大切だと感じた」が男女ともほぼ同じ程度だったが、さらに「家族が家事育児に参加するようになった」が男女ともに3%で非常に少なかった。年代別で突出していたのは10代の「休校で学習機会に差があった」が31%と高い数字だった。

考察

コロナ禍の生活で気づいたことの2位に多かった「社会とのつながりが大切だと感じた」は世代が高くなるにつれ多く、60代～80代の平均は約3割だった。長期間の外出自粛生活で健康被害や精神的孤立感などが深まり、改めて社会とのつながりを実感したものと考えられる。このような時だからこそ「健康に注意する」ためにも感染予防対策を万全に講じながら、地域でつながる工夫が求められるのではないかと。10代高校生の「休校で学習機会に差があった」が多かったことは、一斉休校時、学習対応のばらつきや学習機会の差に生徒たちは不安を感じとったのかもしれない。

問 10 コロナ禍を体験して思ったこと、感じたことなどをご自由にお書きください。(原文まま)

【10代】

女性	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいをよくするようになった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・早く普通の生活、マスクをつける必要がない社会に、戻ってほしい。コロナ禍を収めるためなら、GOTOトラベルや外国人の入国許すなど、もっと見直せと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に遊べなくて、悲しい。カラオケなどに行っている人もいるので、本当にやめてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・普段何気ない日常が素晴らしいこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日マスクをしなければならないのが辛い。顔が見えない分、相手の気持ちの読み取りを気にするようになった。身体的苦労が増えた
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる、いじめが怖いと思った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・早く前の生活に戻りたいです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本全体で自分は大丈夫と思わずに、一人一人が協力し感染拡大を防ぐ行動をとれば、きちんと結果に出るということに気付いた。一人一人の意識がとても、大切だと思った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・外出できない、学校も部活も制限があるなどの窮屈な生活がとても嫌だ。早く以前のような生活がしたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と旅行に行けなくなってしまったり、自由が奪われてしまった。一刻も早くコロナが終息して欲しい。私の母は、シングルマザーなので、毎日大変そうです。12月は土日も出勤しなくては、ならなくなってしまいました。
	<ul style="list-style-type: none"> ・余り旅行に行けなかったり、当たり前だったことがあたりまえではなくなってしまったりしたので、はやくコロナウイルスが収まってほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・早く元に戻ってほしい
	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前のことが、当たり前じゃなくなり不安を感じている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の趣味が極められたと思った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでもマスクをしてないといけないから、夏のマスクは苦しかった。自分がバスの待ち時間に利用している、施設からコロナウイルス感染者が出てしまい利用出来なくなって、不便に感じた。部活の大会などが、たくさん中止になってしまったが、このような状況なので、やむを得ないが、一刻も早くコロナが終息して、元の生活に近い日常を過ごせるようになってほしいと思った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも通りの事が出来ない
	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに行きたいけど、我慢をしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前のことがコロナによって当たり前でなくなったことで、今までの生活がどんなに良かったか、思いしらされたことです。
男性	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの生活が、恵まれていたんだなおもいました。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、これまであたりまえのように出来ていた学校行事や、部活動ができなくなってしまい悲しかった。お店に買い物に行くのも、頻度が減ってしまった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前が当たり前じゃなくなる日が来たなって思いました。
	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレトペーパーの品切れ問題などで、ネットの影響の恐ろしさを実感した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・休校になって、勉強意欲が下がった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の欲求を抑えなくてはならない事が辛いけれど、大事なことだと気付いた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅でずっと運動しない日々だったので、体力が落ち、日光も浴びなかったので生活リズムが乱れてしまって、元に戻すのが大変でした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今まであたりまえが、壊れてしまい、普通の幸せは普通ではないんだと感じた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことのない未知の感染症で、今まで以上に健康に気を付ける人が増えたように思えた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・辛い時代になったと感じた

【20代】

女性	<ul style="list-style-type: none"> 昔の人達は、色々な病気がはやるたびに、大変な思いで、ワクチン等を開発し病気に打ち勝って来たんだと思います。私達も今出来る事を、しっかりやって感染拡大防止につとめなければならないと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> 飲食店の人数制限をしてほしい（働く側からして）
	<ul style="list-style-type: none"> マスクなしでお互いの顔をしっかりと見れた日常は、とてもよいものだったなと思った。
	<ul style="list-style-type: none"> 今まで何気なく他県やライブに行っていたが、不可能になってしまっているのが、とても残念に思います。早くコロナがなくなると良いなおもいます。
男性	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前の暮らしとの比較論が目につく。オンラインやデジタル化が新しい日常だと言われるが、それもそれで良いのかという疑問が消えない。大変だ、何かをせねばならないという強迫観念に日本社会が焦らされている感じがする。感染者が身近にいないということもあって、自粛ムードは単に自宅の時間が増えただけになっていて、その分読書や勉強する時間が増えたと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> コロナがこの様に長引くとは思ってませんでした。
	<ul style="list-style-type: none"> 自分も感染の可能性があること。明日は我が身という言葉をいつも思っている。
	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍によってその問題に対し、考え、意見する事が増えたように感じます。それに伴い、他の問題に対しても、関心をもつようになりました。
	<ul style="list-style-type: none"> 「ウイルス」が悪いのに、「それを持った人」が悪い みたいな考えがとても悲しく感じる。

【30代】

女性	<ul style="list-style-type: none"> 毎日報道をテレビで見ているので、精神的に疲れてしまう。
	<ul style="list-style-type: none"> あたり前の生活を送れるという事がどれ程幸せな事かと気づかされました。今年祖父が亡くなったのですが、入院中面会もできずに見送ることとなり、本当に悲しい思いをいたしました。皆で協力して、早く元の世界に戻ることを願っています。
	<ul style="list-style-type: none"> 様々な情報が簡単に手に入るが、その中には不確かな情報も錯綜しており、自分で調べる事や選択する力が大切だと思う。突発的な出来事や変化していく状態への対応が続くと、物事の本質がわかりづらくなってしまふ 物事や状況を全体で経過で捉えるよう心がけたいと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> いつも通りの生活が一番幸せなことだなと思った。
	<ul style="list-style-type: none"> 経済への影響があっても、短期間で抑えこめるような大胆な対策も時には必要なのでは、と思います。情報を遅れなく開示していただきたいです。早く元の生活に戻れる様祈っております。あと何でも65歳以上は助成（PCRやインフル注射など）とありますが、55歳くらいでも、重症化した方もいるので、もう少し引き下げていただきたいです。
男性	<ul style="list-style-type: none"> 若い年齢で意識がまだのように感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の危険性をはじめて身近に感じた。経済優先の政府の政策に、人の命を軽く見ているような感じがしてとても不安である。
	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着くまで、消毒 マスク対応を行う
	<ul style="list-style-type: none"> どれだけ身に危険が及ぶか否かで、コロナへの意識がバラバラである。いろいろな情報が溢れていて、何が正しいのかの判断がしづらい。決定権者の決断が重要。
	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍を体験し、日常のありがたさ、当たり前ではないことに気付いた。仕事をしたり、家族と過ごしたり、趣味に没頭できること全てに感謝したい。

【40代】

女性	<ul style="list-style-type: none"> この先もコロナは無くならないので、健康に気をつけてポジティブに生活していこうと感じました。
	<ul style="list-style-type: none"> 特に仕事に関して、複数の選択肢を持つことが大切だと感じた 平気で旅行などへ出かける人達を見ると、ストレスを感じた。
	<ul style="list-style-type: none"> 情報の受け取り方は、人それぞれだという事。外出自粛でも、ディズニーランドに行く人もいる。難しいと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> これまでは大丈夫だったことが、ダメになったり、マスクをする、人と近づかないといった制限を子供に意識させて行動に移したりと今までと違うことに、気を付けさせなければならないことに、戸惑いストレスを感じます。どこの家庭でも同じ気持ちならよいのですが、そうではないこの環境が大変です。
	<ul style="list-style-type: none"> 感染はけして他人事ではなく、自分の周りにもし感染してしまった人がいても疎外することなく、明日は我が身と思い行動して行こうとおもいました。
	<ul style="list-style-type: none"> 普通のあたり前の生活が出来るのは、とてもキセキな事だと思いました。こんなに生活が変わってしまうとは、思いませんでした。

【40代（続き）】

女性	<ul style="list-style-type: none"> ・感染経路不明者が増えていて、いつ自分がうつり、うつしてしまうのではないかと不安でいっぱいです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・不安が不安を呼んで、行動してしまう（買占め、いじめのような）集団心理が怖いと思った。コロナそのものより、自分が罹ることでの、影響のほうが怖い。
	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策への意識の差を感じた
	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化の格差がすごく感じる。働き方のルールが崩れている（労働基準、労働環境など）
	<ul style="list-style-type: none"> ・今までにない体験をして、とても不安です。早く元の生活に戻りたいです。
男性	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内に関する限り、実際のウイルスの脅威度を無視した過剰反応が継続している為に、社会に対する損失が無為に拡大する傾向があると感ずる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染は、誰もが罹ってしまう可能性があり、感染者本人も罹りたくて罹っているわけでは無いので、移りたくないという不安から、人々は皆どこかしら差別するような意識を持ってしまっている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアが多く報道しているので、大げさな感はある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人まで、多くの方々がストレスを抱えながら生活をしており、今後さまざまなケアが必要になって来ると思います。一人ひとりの他者を思いやる心が、社会の絆をさらに強くすると考えています。

【50代】

女性	<ul style="list-style-type: none"> ・老年の親に会いたいのが、もし気付かずに感染させてしまったらと思うと怖くて会えない。このまま何年も会えない状態が続いたら、また入院等したときに、面会が出来ないという事態になるかと思うとやりきれない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・後遺症も気になる
	<ul style="list-style-type: none"> ・県外に住んでる家族に会えないのは辛い。帰ってきてもいい？の返答に悩み「今は、」と言わなくてはいけませんが、とても辛い
	<ul style="list-style-type: none"> ・いつまで続くか不安です。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで当たり前だった事（旅行や会食等）が出来なくなり、特に困ることではないが、生活スタイルを改めて見直す機会となったと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・感染を心配するあまり排他的になったり、社会から隔離された生活になったりすることで、健全な精神状態に悪影響があると感じている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・友人等と会えない事が多く、普通の生活がいかに大切なのか、痛感させられます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での、常識が曖昧で困る
	<ul style="list-style-type: none"> ・芸能人の自殺者もあり、今も自分の心に重くのしかかっている。しかし一番は、家族の絆が大切なのを再確認できた。ZOOMでの食事会は、離れていても、近くに感じる事ができよかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・家で過ごす時間が増えたことで、自分の生活を見つめなおし、趣味の時間を持つことが出来る様になった。
男性	<ul style="list-style-type: none"> ・家族でも、県外にいと、なかなか会いづらいこと。ワクチンが、早く打てるようになるといいと思っています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・離れて暮らしている子どもが帰省できなくて、悲しいです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスター発生事業所も含めて、実名で公表した方が良いと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のコロナ情報で、同じ事を繰り返すことが、不安を拍車する。
女性	<ul style="list-style-type: none"> ・三密、マスクなど他人事だと思ってる人が多い。電車内の会話が aumentando。病院が面会禁止になっていて、入院している息子になかなか会えない事
	<ul style="list-style-type: none"> ・不安をあおる報道をやめてほしい。死亡率、死亡数が他の病気と比べて特筆すべき状態なのかどうか、きちんと評価してほしい。

【60代】

女性	<ul style="list-style-type: none"> ・普通の生活の大切さ
	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで当たり前のことだったことが、出来なくなった時の受け取り方により、変化していく日々の生活の過ごし方の違いで、楽しくも辛くもなること。適応性が問われたように感じられた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・受け取り方が様々で、軽く考えている方もまだ多くいるように感じます。周りへの配慮が人間関係に影響している事を実感し、お互いに不安を少しでも減らして、ストレスを感じる事が無い様に努力したいと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりが、手洗い・マスク・換気の励行に努め、一日も早い終息を願うばかりです。

【60代（続き）】

女性	・感染スピードが早くなり、流行をおさえるためにも自分自身を守る以外無いと思う。
	・以前の生活が、とても自然に送っていたことを今さらながら、大事だったと感じています。一日でも早く、みんながストレスなく生活できるように、今 自分のできる事を少しでもやっつけていこうと考えています。
	・自由に生活できることが、いかに有難いことかを改めて知った。
	・コロナ禍を体験して、改めて自分は恵まれていると感じています。定年後の今は、近くの会社にパートに行っていますが、コロナ流行の今でも仕事ができます＝収入があるわけです。生活の不安を感じている人も多いと思います。一日も早い終息を願っています。
	・人に対して、やさしく思いやりが出てきました。
	・日本人の良さ（清潔さ、ルール遵守の精神）を再認識した反面、〇〇警察のような圧力をかける日本人がいることに、失望もしました。一人一人の意識をいろんな面で、高める必要性を感じました。
	・家族全員、健康に留意し、しっかりと生活活動をしていかなければと思う。こんな時代こそ、明るく力強く 頑張ろう
	・なぞ菌が世界をしはいつてるのかと不安です。
	・外出する機会が以前と比べて、少なくなりました。家族と過ごす時間も多少増えたと思います。改めて家族とのつながりが大切と思うようになりました。
	・自分を見直す機会になった。本当に大事なことに気付かされた。
	・早く終息すればいいと思う
	・旅行へ行けなくなった事
	・これだけ長い間、サークルの集まりがダメ、運動がダメとなるとかなりのストレスになる。いかに普通に生活できる事が、大切なのかと感じている。早く旅行に行きたいと思う。
男性	・先が見えない不安
	・これからも感染がなくなることはないので、十分感染に注意しながら生活や行事を行っていくしかないなか、敏感すぎるほど気にしてクレームを言う人がある。考え方は多様なので、理解するようにしてほしい。
	・ワクチンの大切さを感じる
	・旅行やコンサートへの外出する機会が出来なくなった。同好会等の実施に支障が発生している。

【70代】

女性	・自分の考えだけで行動している人（この状況の中で）体の異変、家族関係等々で苦しんでいるこの状況で、怒りを感じます。やはり、社会との つながりが大切。
	・人とのつながり、社会的活動などが、制約されると、とてもストレスを感じる。過剰に恐れて、人にまで自粛を押し付ける人もいて、個人差が大きいと思った。
	・国内だけではなく、世界のどこかで、何か起きて、我々の生活に影響する。又 生死にかかわる事になる。恐ろしい事です。今後も何が起こるか分からない
	・数人で集まった時、空気の入替えが話しても守れない人がいて困った。
	・早く今までの生活に戻りたい。
	・今までのように、季節を感じるための外出がなくなり、少し気分的にうるおいがないように感じる。
	・健康であることの有難さ、家族仲良く暮らせている有難さを痛感、それと同時にボランティア活動の利用者の皆さんがどのように過ごされているのか？不自由でつらい思いをさせているのだろうと、心配です。どうぞお元気で、心折れずにいてくださいと願うばかりです。そして娘が都内の病院 コロナ病棟に勤務していますが、都外の実家や友人と行き来が出来ず半年以上たちます。医療従事者の方々に心より感謝です。
	・人々の会話 コミュニケーションの大事さに気付いた
	・乳幼児の子ども達、大事な成長期において マスクばかりかけている人に接しては表情のくみとりが表情表現に大いに影響してくるのではないだろうか、とても心配である。病院や施設に入所している方々、家族に会えない制限されている現状とてもとてもせつない
	・不要不急の外出は避けていても、病院と買い物には行かなくてはなりません。医療関係者に対して敬意と感謝の気持ちをいつも持っています。そして、スーパー始め、日常生活に必要な物を提供して頂いているお店の人、一人一人に本当に感謝しています。 マスク手洗い、消毒に基本を守ることが自分と周りの人をしっかり守っていくことだと思っています。

【70代 (続き)】

女性	<ul style="list-style-type: none"> 活動に制限が生じ、改善しながらコロナ感染拡大防止を常に優先して、地域との繋がりを保っていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> コロナをもって世の中が変わる時なのかと感じている。最小限の予防は、手洗い、マスク、自己管理に心がける事と思います。
	<ul style="list-style-type: none"> くよくよしない人生でありたい 残り少ない人生を楽しく生きたいと思っています。
	<ul style="list-style-type: none"> 人とのつながりが無くなる事がこわい
	<ul style="list-style-type: none"> 人とのつながりが少なくなった。気持ちが暗くなった。 外出しないので、頭の回転が悪くなった。
	<ul style="list-style-type: none"> 健康が大事であるが、経済がない生活に困っている。
	<ul style="list-style-type: none"> 政治と日常生活のバランスを疑ってしまう。
	<ul style="list-style-type: none"> 予防法を早く見つけてほしい
	<ul style="list-style-type: none"> 年金生活になっていて、収入面では心配がなく、若い人達の事を考えると申し訳ないような気持ちになります。仕事の種類によって、負担が大きく違う不平等に、なんとかならないかと思っています。その中でも、対策を考えて頑張ってる人達に希望が持てました。いつになったら自由に暮らせるのか、そればかり気にしています。
	<ul style="list-style-type: none"> 今、第三次の感染拡大について以前から様々な意見が出されていたが、政権の中心にいる人たちが、どう思いどのように行動しているのか、ということに不安を感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> メディアが不安をあおりすぎではないか？事実の情報を流さないメディアの洗脳体質と政治家及び国民の墮落
	<ul style="list-style-type: none"> 以前は毎日自由に生活を送ってきたが、コロナ禍に入ってから、自粛 我慢の連続で、生活も違ってきたが、以前の様な生活が出来たことに感謝し、反省する機会を与えてくれたのかなと思っている。終息を祈ってます。
	<ul style="list-style-type: none"> 日本の医療制度が他の国（韓国など）に比べて遅れてることに驚いた。PCR 検査がなかなか受けられないことなど
	<ul style="list-style-type: none"> 一人の感染者でも、全校休みになる様な大きな影響与えるという事実をみると、責任の重さを感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> 周囲で参加していたイベント等への参加が出来なくなった。収束するまでの新しい形での企画力が問われると思った。予防対策に関して、個々でなく社会全体で認識して、取り組む必要性を感じた。
	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で外出自粛を体験したこと、密集、密接を相当意識したことは、今までになかった初めての経験で、生きることを実感しました。
	<ul style="list-style-type: none"> 正しい情報が必要だ。むやみに恐れないこと GOTO キャンペーンは止めるべき。医療体制の崩壊が心配だ。政府はしっかり取組を考えてほしい。 経済も心配だが
	<ul style="list-style-type: none"> コロナにかかったら、周囲からどんな目で見られるだろうか、感染させたらどうしよう。自分がかかるとよりも、そっちの方が心配。検査は手軽に出来てほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の日常が多くの人にささえられていることを、改めて実感！これからのあり方を考えさせられた。自分の出来る事は、小さくとも一つ一つ取り組んでいこうと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> 家にいる時間が増えて、自由でのんびりできた。片付け、料理など楽しくやれた。ウォーキングなど健康的な生活習慣がついたなどプラス面もある。
<ul style="list-style-type: none"> 全世界に広まったコロナ禍、この先子ども達や孫達に経済の悪化で、仕事や学生生活の不安が、影響がある様で心配です。 	
<ul style="list-style-type: none"> 10年前の震災の時に比べれば、非常事態宣言が出されても、日常生活にさほどの不便を感じないで過ごせているのは、有難いと思っています。これを機会に地球上の皆が、平等に便利さを失い、快適さを失い、丁度良い位の不便さに戻れば良いとも思いましたが、そんな事にはならず、益々富める者は富み、貧しい者は苦しさを増していく、不平等が大きくなるばかりのようです。 	
男性	<ul style="list-style-type: none"> 冷静にあふれる情報を 吟味する必要がある。可能なら科学的に。
	<ul style="list-style-type: none"> 先の見通しがつかない状況が続くので不安で、コロナと共存する生活様式は不便ではありますが、ワクチンが早く完成して、又 医療現場が疲弊しませんよう願って、体調管理に気を付けたいと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策に不安を感じている。PCR検査が出来ない事
	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に於いて、外出自粛、三密、活動の制約等 経験し自由を奪われた事。
	<ul style="list-style-type: none"> 情報化社会の進展が遅く、医療関係のIT化も進めるべきです。カルテやレセプトもオンラインでの提供が必要です。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校や行政などのデジタル化が世界と比べて本当に進んでいない
<ul style="list-style-type: none"> 何よりも早く、ワクチン 特効薬が全体に接種できて、安心できる生活が送れるようになってほしい。 	

【80代】

女性	<ul style="list-style-type: none"> ・今の市民の人達は、会社をやめて実家に帰ろうとしたら、帰って来るな。あの家の人が帰って来るから気をつけろと言って、家の親たちも迷惑な世の中になっていると言っているようですね ・コロナ禍によって、マスク、手洗いの習慣がついた事は、他の病気にもつながることなので、良かったと思う。部屋の中の空気の入替えにも気遣うようになった。乗り物の中でのエチケット、意識の向上が見られる。三密の考え方は、コロナでなくても大切。 ・感染がこれ以上拡大しないよう願う 健康に気を付けて、年金生活 ・なぜコロナ禍が始まったか、知りたい 必要な外出だけをし、コロナにならない様に気を付ける様になった。早く良い薬が出来てほしいと希望している。 ・マスコミから様々な情報が流れているが、どれを信じてよいか判断がむずかしい。コロナの完全な終息は難しいと思うが少しでも早く元の生活に戻りたい。 ・ワクチン等ない昔、本当に大変な思いをしてきたであろう昔をしのぶ時、健康に十分気を付け、手洗い、うがいを徹底してやらなければと強く思い、出来る事から実行してきたい。 ・あまり出かけないで、自分の趣味を自分なりにしている。 ・感染者が無症状とか、軽症のため感染を拡大させてしまうとか、再感染者がいると報告されていると言うのを知って怖さが増した。何10年も前から学者たちが、気候変動について警鐘を鳴らしていたにもかかわらず、耳をかさなかつたつけが、今人類を襲ってきたのかと思う。 ・医者の有難さ、大変な職業だと思い、改めて感謝しています。
男性	<ul style="list-style-type: none"> ・不安感（うつった場合） ・マスクをしなければならぬ場所や集合等で、頑固に付けない大人がいる事に、非常に残念に思う。小学生でも100%守っている。

6. あなたやあなたの家族で、仕事や給料などに変化はありましたか。(複数可)

1. 何も変わらない
2. 休業した
3. 失業した
4. 就業形態が変わった
5. 収入が増えた
6. 収入が減った
7. その他 ()

7. 日常生活に影響していることは何ですか。(複数可)

1. 在宅ワークやオンライン授業を受けている家族への気遣いが増えた
2. ネットでの買い物が増えた
3. 受診を控えている
4. 美容院や買い物などの外出が減った
5. 家事をする時間が増えた
6. 一日誰とも会話をしない日が増えた
7. ゲームや SNS の使用時間が増えた
8. 特に変わらない
9. その他 ()

8. 人との関わりや生活の中で、ストレスを感じたことはありますか。(複数可)

1. マスクや三密を守らない人がいること
2. 他県ナンバーに対する不安を感じる
3. 家の中で、けんかや言い争いが増えた
4. いつもマスクをしなければならないこと
5. 自分の行動が他人にどう見えるか気になる
6. 仕事が増え心身共に疲れる
7. 子どもに口やかましくなった
8. なんとなく気持ちが沈んでしまう
9. テレビでコロナ情報があふれていること
10. その他 ()

9. コロナ禍の生活の中で気づいたことはありますか。(複数可)

1. 家族が家事や育児に参加するようになった
2. 子どもと一緒に環境や社会に配慮する行動を話し合った
3. 社会とのつながりが大切だと感じた
4. 休校で学習機会に差があった
5. 感染拡大防止や経済的支援のために個人情報を提供することもやむを得ない
6. 健康に注意するようになった
7. その他 ()

10. コロナ禍を体験して思ったこと、感じたことなどご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

未来に希望の持てるやさしい社会へ

本調査は土浦市の市民（10代～80代）を対象にコロナ禍の影響でどのような生活の変化があったか、どのように考え、感じながら暮らしているのかをアンケート形式で尋ねました。

そこから見えてきたものは、生活の変化に関して、「問6. あなたやあなたの家族で、仕事や給料などで変化はありましたか。」では世帯収入はコロナ禍以前と「何も変わらない」と半数が答え、「休業・失業・収入減」などには、4分の1が回答していました。「その他」欄の記述には「残業がなくなり仕事も減った。妻は自宅待機になり給料が出なかった」という30代男性の切実な回答がありました。コロナ禍による雇用悪化は男女共々ですが、「妻は自宅待機、給料なし」の言葉から特に派遣社員や非正規雇用者である女性の深刻な現状がうかがわれます。金銭支援、職業紹介、相談窓口などの周知、女性に対する職業訓練などの人材育成と就労支援が早急に求められます。

どのように感じながら生活しているかについては、感染に対する不安を9割以上の方が抱えていました。その中で「問5. 今、特に気になっていることは何ですか。」に関しては「ワクチン・特効薬がいつ利用できるか」が一番多く、現在ワクチン接種への焦りや副反応など、自分が接種できるのかどうか気になるのも納得のいくことです。また、10～20代に特徴的なのは「以前の生活にいつ戻れるか」の声の多さでした。令和2年3月から約3か月にも及んだ全国一斉休校、4月に発令された緊急事態宣言などストレスは極みでした。「以前の生活に戻る」ということは学校へ行って生徒同士が安心して学んだり、遊んだりの日常に戻りたいという当たり前の素朴な気持ちだと思います。

自由記述欄にあった「今までの当たり前が壊れてしまい、普通の幸せは普通ではないんだ」という10代若者の文章が深く心に突き刺さりました。素朴な「当たり前」を壊したのは誰でしょう。コロナ禍です。コロナ禍は私たちに「普通の幸せは何か」を突き付け、もう一度「考えろ！」と言っているように思えてなりません。未来を担う子どもたちに豊かで安心な社会を渡せるよう、自然との共生、日々の暮らし方を私たちは真剣に見つめなおし、行動していく必要があります。

この度の「コロナ禍による生活と意識に関するアンケート調査」から市民の皆様の声を聴かせていただきました。もう一度、みんなで希望の持てるやさしい生き方を考える機会にしていきたいと思います。

(文責 今高)

【 編集委員（調査研究協力） 】

◎ 今高 博子	篠 捷子	鈴木 君枝
吉田 照美	矢口 恵子	○ 山田 陽子
栗栖 恵子	○ 木野 英子	滝田 国子
河田 輝子	岡元 孝子	眞山 淑枝
原井 みつ江	田村 尚子	○ 今泉 芳子
○ 岡田 和子		

(順不同、 ◎印 執筆編集長、 ○印 執筆担当)

【 構成団体 】

土浦市更生保護女性会	治枝の会	うららフレンドハウス	和の会
土浦市商工会議所女性会	TMオルカ	J Aつくば水郷女性部	博和会
土浦市食生活改善推進員協議会	新治婦人会	土浦暮らしの会	六好会
土浦市地域婦人団体連絡協議会			(順不同)

【 協力機関 】

土浦市男女共同参画センター

土浦市女性団体連絡協議会
コロナ禍による生活と意識に関するアンケート調査報告書

発行日：令和3年5月

発行：土浦市女性団体連絡協議会

発行責任者：会長 今高 博子

〒300-8636 土浦市大和町9-1

☎ 029-827-1107



水とひとが輝くまち 土浦